

科目区分：教職科目A，科目名：教育相談研究

担当教員：信原孝司，登録学生数：28名

フィードバック・映像教材・グループ発表等を生かした授業実践

教育実践総合センター・信原孝司

1. 授業の概要

本授業の目的は、教育相談の基礎を学び、更には教育相談の重要テーマ「不登校」「いじめ問題」「保護者への援助」「教師のメンタルヘルス」等、多様で深刻な問題への理解を深め、教師の専門性について考える中で、児童生徒へのより良い支援のあり方を修得こととしている。また、授業の到達目標としては、以上の多様な教育問題に自発的・自立的に取り組めることとした。また、ディプロマ・ポリシーは、「教育をめぐる様々な現代的課題について論じ、適切な対応を考えることができる」（思考・判断）、「自己の学習課題を明確にし、理論と実践を結びつけた主体的な学習ができる」（関心・意欲）、とした。

まず授業開始にあたり、シラバスをもとに授業予定を学生に周知している。これは、学生が前期の見通しを持って授業に取り組み（予習し）、関連した項目の復習に取り組みやすくなることを意図している。以下は今年度の講義内容である。

- 第 1回 オリエンテーション
- 第 2回 教育相談概論 1
- 第 3回 教育相談概論 2
- 第 4回 テーマ 1：不登校
- 第 5回 テーマ 2：いじめ問題
- 第 6回 テーマ 3：反社会的問題行動
- 第 7回 児童生徒の心理を考える I
- 第 8回 テーマ 4：児童虐待と心的外傷
- 第 9回 テーマ 5：保護者への援助
- 第 10回 テーマ 6：教師のメンタルヘルス
- 第 11回 紙上応答訓練
- 第 12回 児童生徒の心理を考える II
- 第 13回 ロールプレイ 1
- 第 14回 ロールプレイ 2
- 第 15回 最終レポート

2. 授業の方法と形態・アンケート結果

授業は出来るだけ担当者と学生との双方向となるよう心掛けた。具体的な方法は次の通り。

I. 学生からの意見・感想・質問を小レポートして毎回提出させ、次回授業冒頭で要約や質問への回答をフィードバックする。

II. 授業テーマに沿った映像を援用して、学生の印象に残るように工夫する。

III. 学生が授業に主体的に取り組めるように、グループ発表・討論形式を取り入れる。

IV. 演習形式を用いて、体験学習も取り入れる。

I では、出席カード（A5サイズ）に質問・感想欄を設け、小レポートとして講義の最後の5分～10分で学生が記入し回収。それらを次回授業の冒頭で担当者から小レポートの要約・感想を述べ、質問には出来限り応えた（取り上げる学生に偏りが無いよう配慮した）。学生からは「質問に応じてくれて理解が深まった」「自分と違う意見を知れて勉強になった」等の声があった。

II では、授業テーマに関連したビデオ映像を援用した。ビデオ映像は授業の最後にまとめとして視聴した（10分～20分程）。学生から「印象に残りやすくて良かった」等の声があった（7、12でも、授業の振り返りとして映像教材を用いた）。

III は予定表の4～6、8～10がそれに該当する。学生が興味関心のあるテーマを自発的に選ばせ、それらをグループで調べ、レジュメを作成・発表し、全体でディスカッションした。例年、選択テーマの人気に偏りのあることが課題であるが、学生からは「興味あるテーマに取り組めて良かった」「他専攻の人との交流で視野が広がった」「協働意識が高まった」等の声があった。

IV は、予定表4～6、8～10の発表中でのロールプレイ実施と、予定表11、13、14が該当する。例えば、4では不登校問題のグループが考えてきた生徒と担任教師の相談場面を学生達の前でロールプレイした。学生は「不登校のしんどさを切実に感じられた」等、実感を伴う体験となった様子。

3. 総括

様々な授業方法と内容を盛り込みすぎた感があり、時間不足の回もあった。授業内のディスカッションや質疑にも時間を割く等、授業内容や方法等を考慮した授業展開が今後の課題である。